

平成 30 年度 学校評価書

学校法人青い鳥学園 佐藤幼稚園 園長 山本 勘太
佐藤幼稚園学校関係者評価委員会委員長 佐山美也子
(学校関係者評価委員 7 名)

1. 本年度の重点目標
- イ. 保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実
 - ロ. 心豊かに育む絵本の読み聞かせ、リトミックの充実
 - ハ. 在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実

2. 自己評価結果に対する学校関係者評価
- * A (十分に成果があった)、B (成果があった)、C (少しの成果があった)、D (成果がなかった)

(教職員 8 名)

評価対象	評価項目	具体的取組	自己評価				園としての改善策	学校評価				学校関係者評価委員の意見
			A	B	C	D		A	B	C	D	
A. 本年度の重点 目標・活動	1.保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実	1.各学年、1・2 学期に親子レクレーション、親子遠足、お父さんと遊ぼう、保護者参加型運動会、家庭教育講座を実施。 年長児は、陶芸体験、親子もちつき大会を実施	4	4	0	0	1.遠足・レクレーションは、各学年、年に 2 回実施しているが、親子でより楽しんで頂くために、各学年行く場所を変えて、バスレクや親子遊びも取り入れながら、実施している。 お父さんと遊ぼうでは、体を動かしたり、少し長い道のりを歩いたり、大変だと思える点もあるが、普段あまり子ども達と関わりを持っていないお父さんも子どもとの貴重な時間を過ごしてもらえらる良い機会なので、今後も楽しんで参加してもらえよう工夫していきたい 2.絵本の読み聞かせの時間は、例年通り、帰りの時間等に子ども達がゆったりとした時間を過ごせるよう行った。今年度は各学年、リトミックに力を入れて、案作りから、子ども達が楽しめるようにと創意工夫した。その結果、子ども達もリトミックの時間を楽しみにしてくれて、成果を実感できた。今後も研修を受けながら、楽しんで行っていきたい 3.保護者のニーズの多様化に、しっかりと応えていけるよう、今後もより一層力を入れていきたい。又、野外施設でのミニイベントも好評なので、創意工夫しながら引き続き行っていきたい	7	0	0	0	1.親子レクレーション、及び親子遠足は、兄弟姉妹を持つお母さんにとって、そのお子さんと 1 対 1 で過ごすことのできる貴重な時間となっているようですし、友達とのかわりをじっくり見られる時間でもあるようなので、これからも続けて欲しいと思う。只、父親への講座等も設けて頂けると、より父親が子育てに関心を持ってくれるという思いもあるようなので、今後は非実施して欲しいと思う。また、自然体験ができたり、虫や生き物等にも子どもと一緒に目を向ける良い機会ともなり、家庭だけではなかなかできないので、これからも大切にしたい 2.絵本の読み聞かせは以前から大切にしてくれている。リトミックは、継続して行ってきた成果を感じられているようなので、今後も絵本の読み聞かせと同様に園の教育の柱として大切にしたい 3.保護者のニーズも多様化してきているので、それに応えられるような園であって欲しい。また、野外施設での行事・活動、ミニイベントは、家族みんなで楽しめるので、今後も続けて欲しい
	2.心豊かに育む絵本の読み聞かせ リトミックの充実	2.1 年間を通して、各クラスで季節や子ども達の興味関心を考慮しながら、ほぼ毎日、絵本の読み聞かせを行った。 又、毎週 1 回クラス文庫の日を設け、各家庭に絵本を持ち帰ってもらい、親子で絵本に親しんでもらう取り組みをした。リトミックでは、講習を受けた教師が、年間計画を立て、各学年の子ども達と楽しんだ	4	3	1	0		7	0	0	0	
	3.在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実	3.休日の園庭の開放や子育て相談の実施、開園日は預かり保育を実施。また月 2～3 回、0～3 歳までの未就園児親子対象のひよこデーや、次年度入園予定の親子を対象に親子すくすく教室を実施。さらに、休日には当園の野外施設でミニイベントも年数回実施した	2	6	0	0		5	2	0	0	
B. 保育の計画性	1.園の理念や教育方針について、園長や教職員と話し合っている	1・2 に関しては、学期前、学期終了後はもとより、必要に応じて、職員会議の時や、研修の機会を設け、教職員全員で話し合った	4	2	2	0	1 に関しては、話し合いの機会は日々設けているが、若手教員が多いため、今後も職員会議等でしっかりと伝え、理解が深まるように指導していきたい 2・3 に関しては、年度初めに年	5	2	0	0	1・2・3 伝統を引き継いでいくには難しい時代になったが、今後も園が今まで大切にしてきたことを求める方がきつというと思うので、今後も親子共々楽しめるよう続けて欲しい
	2.園の教育課程を理解し、子どもの実態・地域性を考慮し、保育計画を立てている		4	2	2	0		7	0	0	0	

	3.保育計画と実践の評価・反省を行い、次に活かせるように心掛けている	3に関しては随時、必要に応じて職員会議等で話し合いの場を設けた	5	2	1	0	間カリキュラムを作成し、月単位、週単位と確認の上、実践・反省・評価するよう努めているが、細かい点については、教職員によって差が見られるので、しっかりと指導し、話し合いに力を入れていきたいと思う	6	1	0	0	また、全教職員が園の理念や教育方針にしっかりと理解していると感じるので、今後も引き続き、教職員みんなで協力して、子どもにとっても、保護者にとっても楽しい園であり続けて欲しい
C. 研修と研究	1.研修会や研究会に意欲的に参加している	1.県私幼、浜私幼が実施する研修会への参加に加えて、夏期休暇等には教員としての資質の向上のため、他機関が主催する研修会へ積極的に参加した。加えて、今年度は教職員研修会の東海北陸大会の話題提供園になったので、その研修会にも参加をした 2. 2学期以降、子ども達が落ち着いた時期から数回、各学年、他のクラスの保育参観、また、クラス交換保育を実施し、意見交換の場を設けた。リトミックについては、浜私幼の研修のテーマでもあったので、一部の教員ではあるが、成果を感じることできた1年でもあった 3.4に関しては、日々の保育計画を立てる上で、各教員が必要な情報を得たり、園長等が職員会議等で提案や指導をした。又、研修会で得た知識や、学んだことを職員会議等で伝え合い、園全体の資質向上を心掛けた	2	4	2	0	1.今後もできるだけ必要性の高い面を強化するうえでも、積極的に外部の研修会には参加していきたい 2.今年度は教職員研修会、東海北陸大会の話題提供園になったこともあり、園全体として取り組むことができた。只、もう少し色々なテーマでの園内研修ができればという思いもあるので、来年度以降に活かしていきたい 3・4に関しては、若手の教員に積極的に自ら学んで欲しいという思いもあったので、その都度話し合いをしたり、促してきたが、個々の差が出てしまったので、園全体として成果がでるよう今後も職員会議等を通して、教職員間で情報交換する機会を多く設けていきたい	7	0	0	0	1.今年度は教材研究をテーマとした研修発表園になり、教材研究にも力を入れることができ、子ども達にとっても、先生達にとっても実りある1年になったとのことだったので、来年度以降も今年度の成果と併せて、他の研修会にも積極的に参加して、園の活動に活かして欲しいと思う。只、他のテーマの園内研修が不十分だったと聞いたので、来年度以降に活かしてほしいと思う 2.今年度は、絵本の読み聞かせ、絵本の世界を取り入れたごっこ遊びに加えて、リトミック研修に力を入れ、その成果も感じることができたとのことだったので、今後もリトミックを大切にしたいと思う。
	2.園内研修を積極的に行っている		1	2	3	2		7	0	0	0	
	3.教材・教具について知識を得たり、様々な活用方法を研究している		1	4	2	1		7	0	0	0	
	4.保育に必要な知識の獲得や、技能の習得を積極的に行っている		1	4	3	0		5	2	0	0	
D. 保育のあり方・子どもへの対応	1.人ひとりの子どもとの関係がしっかりと築けている	1～3に関しては、各教師が、家庭から提出される個別表、前年度の担任の話、連絡帳、個別面談、保育日誌、日々の保育活動等を通して、1年間を通して、1人ひとりの子ども達を理解し、信頼関係を築いた。今年度も特別支援に関する話し合い、勉強会にも力を入れた 4に関しても、個別表、連絡帳等で、個々の子どもが持つ病気、食物アレルギー、対処法等について十分に理解をし、対応できた。また、怪我やトラブルへの対応についても、面談や個別表を基に、職員会議等を通して、教職員間で対応をしっかりと統一するよう、何度も話し合いの場を設けたり、保護者の方にも理解を深めて頂けるよう、直接お話ししたり、手紙等でしっかりと伝えた	4	4	0	0	1～4どの項目に関して、職員会議等で日々確認しながら行ってきたので、それなりの成果を感じることができた。只、一部の教員に十分でない面が見られたので、教員によって極端な違いや差が出ないよう、個人的に具体的な指導を実施し、話し合いの場をできるだけ設けたり、研修を実施して、次に繋がるようにしていきたい。また、今後も特別な支援が必要な子ども達への対応もしっかりとできるような体制作りを心掛けていきたい	7	0	0	0	以前から感じているが、どの教員にも共通しているのは、一生懸命で、本当に子ども達の事を大切にしてくれていると感じた。 子ども達一人ひとりを丸ごと受け止めてくれているので、子ども達も安心して園に通うことができ、子ども達の成長には大きな力となっていると感じる。これからも子ども達にとって楽しい園であると同時に、温かみのある教員が沢山いる園であり続けて欲しい
	2.人ひとりの子どもの興味・関心事及び友達関係をしっかりと把握している		5	3	0	0		6	1	0	0	
	3.一人ひとりの子どもの発達についての理解が十分にできている		4	4	0	0		6	1	0	0	
	4.健康と安全についての配慮ができている		4	3	1	0		7	0	0	0	
E. 幼稚園運営	1.クラス経営がスムーズに行われている	1.各担任が、各クラスの子どもの良い所を伸ばし、子ども達1人ひとりが生き生きと遊ぶよう、日々の保育に創意工夫を凝らした。また、園長を始めとして、園全体としても活気溢れる魅力のある園でいられる環境設定を心掛けた 2.特に経験が浅い教師には、主任やベテラン教員ができる限り相談、指導の場を設け、話し合った 3.各教師が自分のクラスのことだけではなく、各学年、園全体のことも考え、行動できるように、常日頃から職員会議等で助言、指導した	4	4	0	0	1.個別面談、連絡帳、お手紙等で、保護者からも高評価を頂いているが、若手教員の対応等が不十分な面が見られたため、今後はしっかりと対応できるよう指導していきたい 2.・3共に、日々の職員会議だけではなく、その都度必要に応じて話し合いの機会を設けてきたので、それなりの成果を感じることができた。只、若手教員との連携が若干うまくいかなかった点もあったので、今年度の反省点を来年度に活かしていければと思う	7	0	0	0	保育参観させてもらい、各クラスの色がでている、違いがあってもよい、面白い、素敵だということを感じた。共通しているのは、色は違うが、どのクラスの子ども達も生き生きとしていたことである。今後も大切にしていきたい また、子ども達一人ひとりが楽しく過ごしている様子も見られ、学年毎の違いも感じることができた。 子ども達のことを第一に考えて色々な事を行ってくれるおかげで、子ども達の成長に良い影響を与えてくれていると感じた。今後も変わらず今のような先生方であって欲しい
	2.園長・主任等管理職の教師との関係は円滑にいつている		6	1	1	1		7	0	0	0	
	3.同僚の教師との協力・連携がしっかりとなされている		4	3	1	0		7	0	0	0	

F. 保護者への対応	1.園や家庭での子どもの様子について、電話・連絡帳等でしっかりと伝え合っている	1.連絡帳、電話、園便り、クラス便り、手紙、直接口頭などで、様々な方法で、できる限り伝え合っている	3	5	0	0	全体として、丁寧かつ細やかに対応できるよう心掛けており、しっかりと対応ができていますが、若手教員の認識の違い等で、保護者の方にはしっかりと伝わっていないことも多少あったので、今後は気を付けていきたい	7	0	0	0	園便り・クラス便り・連絡帳・個別面談、お手紙、電話等を通して、子どもの様子等について、保護者の方にはできるだけ分かり易く対応しているとお話を聞いているので、今後も続けて欲しい 昨年の反省にあった HP の活用についても、HP をリニューアルし、徐々にその効果も感じているとのことだったので、これから有効活用してもらいたいと思う
	2.保護者からの相談・クレーム等を、園長、主任等に報告・相談し、対応している	2.担任は、1と同様の方法でできる限りの対応しており、園長・主任等にも報告し、話し合いを行い、必要に応じて、園長・主任等が保護者面談を行ったり、改善すべき所はすぐに対応した	5	3	0	0		5	2	0	0	
G. 地域の幼児教育センターとしての役割	1.園に対する様々な問い合わせ等についてきちんと対応している	1.未就園児の活動や次年度の入園に関する問い合わせや、地域からの園行事に関する問い合わせ等にしっかりと丁寧に対応している	4	2	2	0	1.全体としては、共通の理解を持ち、対応に差が出ないよう、職員会議等でしっかりと話し合いの場を設け、伝えていくことができたが、若手教員は不十分な面も見られたため、今後もしっかりと対応できるように伝えていきたい 2.今後も、地域の幼児教育センターとしての役割を果たしていけるよう、在園児だけでなく、未就園児や地域に対して、できる限り開放的な園でありたい 3.前年度に比べ、職員会議等で、園側から各教諭へ伝える機会を増やしたため、それなりの成果があった。今後も適宜、理解を深めるための機会をできるだけ設けていきたい 4.次年度は働く保護者も増加してきたので、終了時間を17時30分までとする予定である 又、夏期・冬期等、長期休暇中の預り保育も実施予定である	7	0	0	0	1.保護者や他の問い合わせについては、園として共通の理解・意識を持って対応できるように指導しているとのことで、引き続き丁寧かつ分かり易い対応を心掛けて欲しい。 2.親子教室時や休日等に、園庭や遊具、保育室、園外施設の開放を行っており、未就園児や地域に対して開放的であると思う。また、離れた場所にある野外施設の開放や活動も多々あるのでこれからも続けて欲しい。地域の公園等も園外保育でよく利用しているようなので、今後も活動の中に取り入れていって欲しい 3.今後の園児確保等のことも考慮して、これからも未就園児親子にも開放的な園であってほしいと思う 4.来年度、預り保育時間の延長、長期休暇中の預り保育の実施を予定しているようなので、それによって良い効果が出ることを期待したいと思う
	2.地域の人たちや未就園児に対して、園庭等を開放したり、子育て相談に応じている	2.Aの3と同様	4	3	1	0		7	0	0	0	
	3.子どもの教育のために利用したい地域の自然環境や施設、機関について理解している	3.よく利用する、また、利用する可能性がある場所については事前に出向き、利用方法、安全面等について、常に下調べを行っている	3	3	2	0		7	0	0	0	
	4.預り保育を実施している	4.今年度より、開園日の月・火・木・金・土曜日は、朝8時から9時30分、15時から17時15分まで、水曜日は、朝8時から9時30分、14時から17時15分まで実施した	6	2	0	0		7	0	0	0	
H. 自己評価システム	1.教師1人ひとりがしっかり自己評価している	1.各学期末・学年末に自己評価表を用いて自己評価を実施した	5	3	0	0	自己評価に対しての客観的な評価も併せて、より質の高い保育活動ができるように、また一教師としても、人間としても成長していけるよう話し合いの場を増やし、改善点を検討し、次に活かせるようにしていく	7	0	0	0	自己評価もしっかりと行っているようなので、これからも、常に向上心を持って、保育活動にあたって欲しいと願っている。只、教師によって対応等、少しバラつきがあるようなので、研修等を通してこれからも一人ひとりが資質の向上に努めて欲しい
	2.自己評価に対し、園として問題点を把握し、その改善に対処している	2.各学期、自己評価をもとに、職員会議等で園として、また一教師としての問題点について話し合い、改善策を検討し次学期に実施した	5	3	0	0		7	0	0	0	
I. 外部アンケート	1.保護者へのアンケートをしっかりと実施している	1.年度末に全園児の保護者を対象に、幼稚園及び教職員、子どもに関するアンケートを実施した	5	3	0	0	今後の園運営の大きな指標となるので、保護者の方の意見も謙虚に受け止めていきたい。又、保護者の皆さんからの質問にも、しっかりと伝わるよう、理解して頂けるような回答を心掛けていきたい	3	4	0	0	これから子ども達のことを第一に考え、園の考えは引き続き大切にしていく欲しい。只、少子化の今後も継続していけるよう、保護者の思いも考慮しながら、今後の方針を考えていく欲しいと思う
	2.保護者へのアンケート結果をしっかりと受け止め、課題に対し善処している	2.アンケート結果を真摯に受け止め、至らない点については改善策を考えた。また、園の考えなどにおいて保護者にうまく伝わっていない点については、直接お話ししたり、再度手紙等で伝達するよう工夫した	5	3	0	0		3	4	0	0	

今後に向けて（学校関係者評価を受けて）

来年度は、ホームページのリニューアル、満3歳児保育の実施、長期休暇中の預り保育の実施等、園児確保のための新たな試みを始めるが、それと併せて、当園が長年大切にしてきた教育は引き続き大切にし、子ども達のための園であり続けたい。又、保護者のニーズも多様化してきているので、そのニーズにもできるだけ応えていけるような体制作りも行っていきたい